



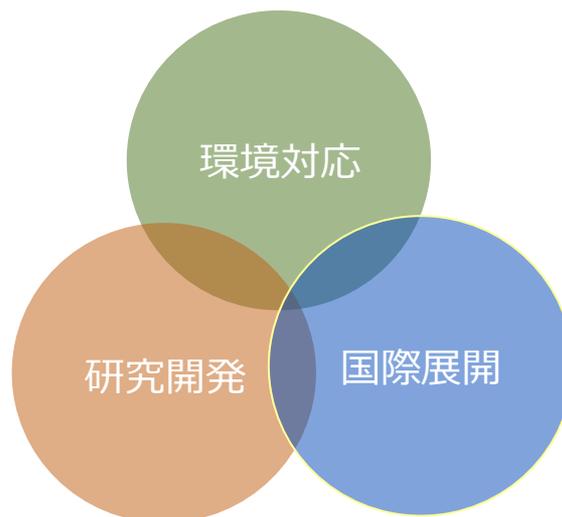
JSP Corporation Engineered Plastic Foams

2017年3月期

決算説明会

株式会社JSP

企業理念
『創造的行動力による社会への貢献』
経営方針
『For the Growth』



代表取締役社長 酒井 幸男

1. 2017年3月期決算概要（2016年度）
2. 2018年3月期決算見通し（2017年度見通し）
3. 2017年3月期決算補足（2016年度補足）
4. 新工場・新製品の紹介

Growth

売上高・販売数量



Margin

営業利益・営業利益率



Return

総資産経常利益率



項目 (単位：百万円)	2015年度 実績	2016年度 業績予想 (2017/1/29)	2016年度 実績	前年比	公表比
売上高	114,904	108,000	109,048	△5.1%	+1.0%
営業利益	9,278	9,000	9,612	+3.6%	+6.8%
経常利益	9,101	9,100	10,033	+10.2%	+10.3%
親会社株主に帰属 する当期純利益	5,914	6,200	7,301	+23.5%	+17.8%

- 為替：109.4円/\$ 120.6円/€ 16.4円/元（2015年度 121.0円/\$ 133.7円/€ 19.2円/元）
- 原油価格(ドバイ)：\$47/バーレル（2015年度 \$46/バーレル）
- 国内：売上高減少 主に製品価格改定の影響
営業利益増加 スプレッド回復
- 海外：売上高減少 販売数量は増加したが製品価格改定・円高による影響
営業利益微増
- 配当：1株当たりの配当金 年間 50円（中間20円、期末30円）

項目 (単位：百万円)	2015年度 実績	2016年度 実績	前年比
売上高	38,289	37,929	△0.9%
営業利益	2,755	3,045	+10.5%

製品価格改定の影響で売上減少、スプレッド回復で利益改善

食品包材・容器



「スチレンパーパー」

- 電子レンジ対応・即席麺容器の販売が好調

産業用包装材



「ミラマット」
「キャプロン」
「Pボード」
「ミラボード」

- 液晶TV基板輸送緩衝材等の付加価値製品の販売が国内外で好調

住宅用断熱材・土木資材



「ミラフォーム」

- 割付断裁品、高断熱製品の販売好調
- 東北復興需要で土木の数量が増加

項目 (単位：百万円)	2015年度 実績	2016年度 実績	前年比
売上高	70,865	65,354	△7.8%
営業利益	7,436	7,376	△0.8%

販売数量増加、価格改定・円高の影響で売上減、円高の影響で減益

自動車部品・家電緩衝材・グラウンド基礎材



「ピーブロック」
英名「ARPRO」
「エレンポールNEO」



- 自動車の新規部品採用拡大
- 日本：自動車生産台数減の影響は軽微
- 北米・欧州：好調に推移
- 中国：数量増も円換算で売上減

発泡性ポリスチレン・ハイブリッド成形品



「スチロダイア」
「ヒートポールGR」
「クリアポール」
「スーパーブロー」

- 家電分野及び機能性製品は数量増加
- 建材・土木分野は前年並み
- 水産・農業分野の需要減少

項目 (単位：百万円)	2015年度 実績	2016年度 実績	前年比
売上高	5,749	5,764	+0.3%
営業利益	17	148	+745.2%

増収増益（国内：売上減、中国：売上増）

国内一般包材

- 災害の影響による自動車・光学製品向け梱包材
需要減の影響で売上減



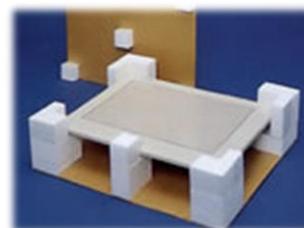
自動車部品トレイ



光学部品緩衝材

中国一般包材

- 新製品・新用途の拡販等で売上増



情報家電緩衝材



1. 2017年3月期決算概要（2016年度）
2. 2018年3月期決算見通し（2017年度見通し）
3. 2017年3月期決算補足（2016年度補足）
4. 新工場・新製品の紹介

項目 (単位：百万円)	2016年度 実績	2017年度 見通し	前年比
売上高	109,048	116,500	+6.8%
営業利益	9,612	9,500	△1.2%
経常利益	10,033	9,700	△3.3%
親会社株主に帰属 する当期純利益	7,301	6,700	△8.2%

- 為替：110円/\$ 120円/€ 16円/元（2016年度 109.4円/\$ 120.6円/€ 16.4円/元）
- 原油価格(ドバイ)：\$52/バーレル（2016年度 \$47/バーレル）
- 国内：独自技術に基づいた差異化製品の拡販
高断熱材、液晶テレビ基板輸送用緩衝材等の売上増加
- 海外：販売数量は前年比約9%増加
欧米・中国で自動車部品採用拡大、台湾は液晶テレビ基板輸送用緩衝材需要回復
- 配当：1株当たりの配当金（予想）年間 50円（中間25円、期末25円）

項目 (単位：百万円)	2017年度 中期経営計画	2017年度 見通し	中計比
売上高	135,000	116,500	△13.7%
営業利益	8,800	9,500	+8.0%
経常利益	8,900	9,700	+9.0%
親会社株主に帰属 する当期純利益	5,600	6,700	+19.6%

- 中期ビジョン「深化と成長」
- 計画名「Deepen & Grow 2017」
- 基本方針
 - (1) 差異化戦略の推進
 - (2) 成長戦略の推進



対中期経営計画

- 売上高
 - ① 原料価格値下がりの影響
原油価格(ドバイ) \$105→\$52/バーレル
 - ② 新製品の販売目標が未達
- 各利益
 - ① 高付加価値製品へのポートフォリオ改善
 - ② 原料価格安定によるスプレッド回復

項目 (単位：百万円)	2016年度 実績	2017年度 見通し	前年比
売上高	37,929	40,421	+6.6%
営業利益	3,045	2,977	△2.2%

重点施策：高付加価値製品の販売に注力、製品の差異化を推進

食品包材・容器



「耐熱PSP」



「木目PSP」

- 耐熱食品容器の拡販
- 機能性食品容器の拡販

産業用包装材



「ミラマット」
「キャプロン」
「Pボード」
「ミラボード」

- 液晶TV基板輸送緩衝材の拡販
- スマホ・タブレット市場開拓
- 海外市場での販売を強化
- 差異化製品による新市場開拓

住宅用断熱材・土木資材



「ミラフォーム」 「Jウォールブロック」



- 高断熱性能ミラフォームの拡販
- Jウォールブロックの拡販
- 土木分野のシェア拡大
- 高断熱化技術の研鑽

項目 (単位：百万円)	2016年度 実績	2017年度 見通し	前年比
売上高	65,354	70,014	+7.1%
営業利益	7,376	7,367	△0.1%

重点施策：EPP 地域別販売戦略の明確化、EPS 機能性製品の拡販

自動車部品・家電緩衝材・スポーツシューズ

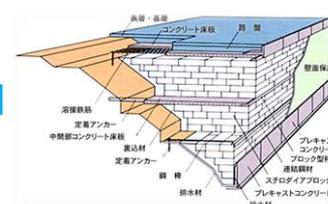


「ピーブロック」 「エレンポールNEO」 「ARGILIX」

- 自動車の新規部品の採用拡大（シート等）
- 液晶TV基板輸送用緩衝材拡販
- 柔軟性発泡体を販売開始

発泡性ポリスチレン・ハイブリッド成形品

「スチロディア」
「ヒートポールGR」
「クリアポール」



- EPS盛土工法
- エコキュート保温材
- 自動車部品
- 消失模型 casting



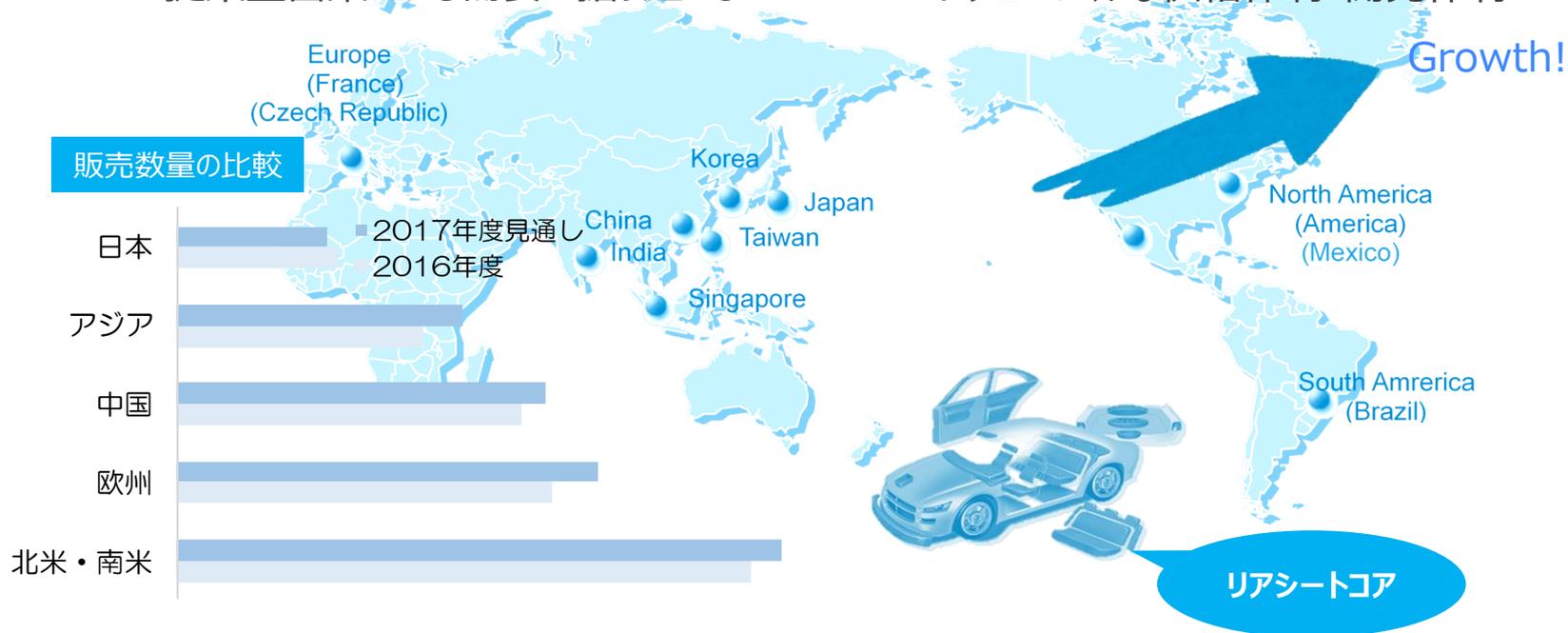
2016年度比 **約8%**の販売数量増加を見込む

● 販売戦略

- ✓ 地域別販売戦略の明確化
- ✓ ユーザニーズに対応した製品提供
- ✓ 提案型営業による需要の掘り起こし

● 当社の強み

- ✓ 高い技術力・品質
- ✓ 高い企画力・設計力
- ✓ グローバルな供給体制・開発体制



セグメント (単位：百万円)	2016年度実績		2017年度見通し		前年比	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上	利益
押出事業	37,929	3,045	40,421	2,977	+6.6%	△2.2%
ビーズ事業	65,354	7,376	70,014	7,367	+7.1%	△0.1%
その他	5,764	148	6,065	122	+5.2%	△17.6%
計	109,048	10,570	116,500	10,466	+6.8%	△1.0%
調整額	—	△958	—	△966	—	—
合計	109,048	9,612	116,500	9,500	+6.8%	△1.2%

- 設備投資額 約 10,000百万円
(増産・競争力強化5,000百万円、維持5,000百万円)
- 減価償却費 約 5,170百万円
(2016年度比 約220百万円増加)

1. 2017年3月期決算概要（2016年度）
2. 2018年3月期決算見通し（2017年度見通し）
3. 2017年3月期決算補足（2016年度補足）
4. 新工場・新製品の紹介

(%は表示は対前期増減率)

年度 (単位：百万円)	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益
2016年度	109,048 (△5.1%)	9,612 (+3.6%)	10,033 (+10.2%)	7,301 (+23.5%)
2015年度	114,904 (△1.7%)	9,278 (+63.7%)	9,101 (+50.6%)	5,914 (+46.4%)

包括利益：2016年度 5,748百万円 2015年度 3,280百万円

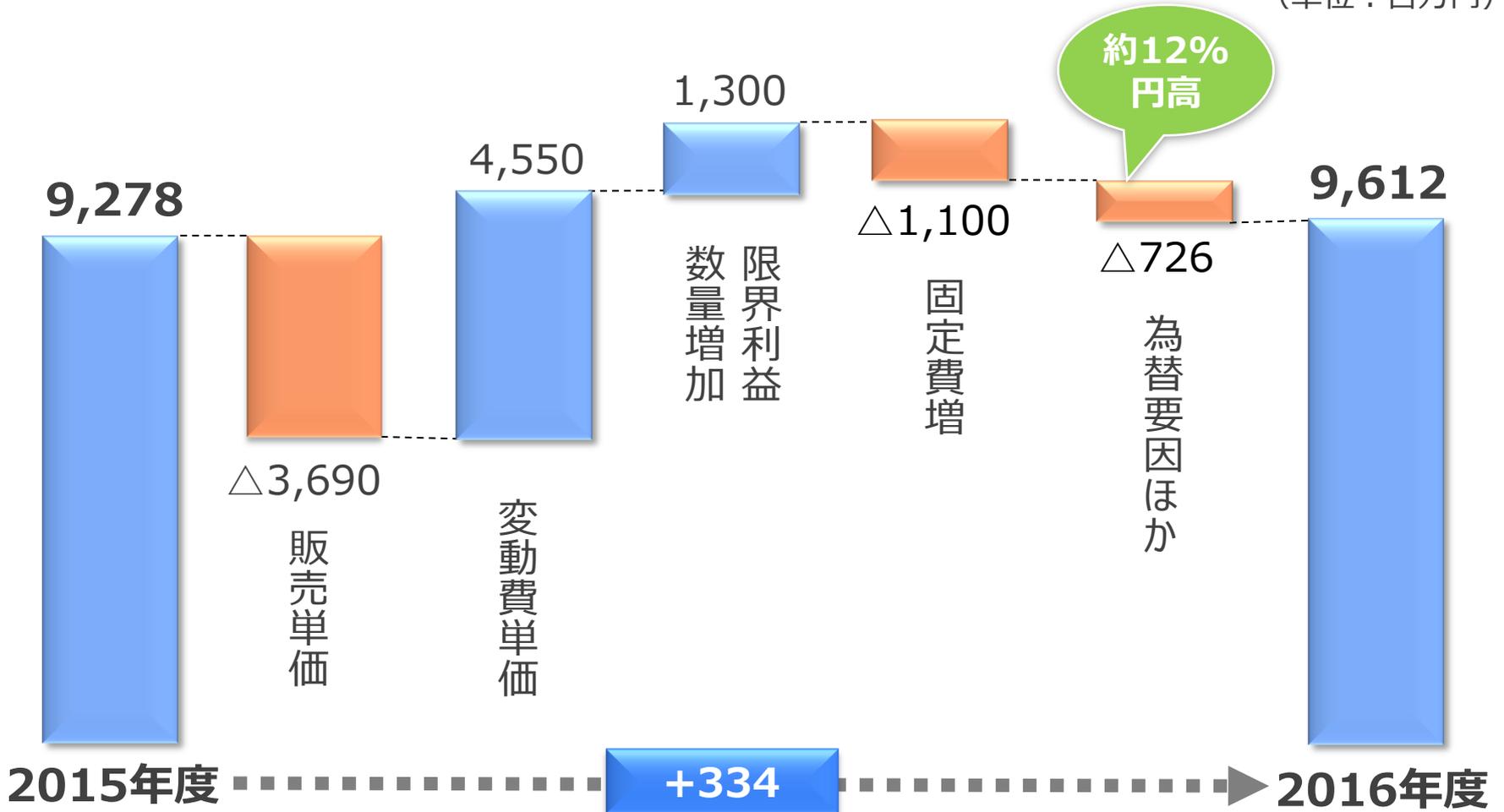
年度	1株当たり 当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
2016年度	244円94銭	10.4%	8.8%	8.8%
2015年度	198円40銭	8.9%	7.9%	8.1%

営業利益の増減要因

2016年度補足

JSP Corporation
Engineered Plastic Foams

(単位：百万円)



利益差異は、2015年度実績の為替レートを用いて計算

19 営業外損益・特別損益

2016年度補足

JSP Corporation
Engineered Plastic Foams

営業外損益

科目 (単位：百万円)	2015年度	2016年度
受取利息	245	170
為替差益	—	41
その他	416	431
営業外収益合計	661	642
支払利息	155	111
為替差損	493	—
その他	190	110
営業外費用合計	839	221

特別損益

科目 (単位：百万円)	2015年度	2016年度
固定資産売却益	14	32
投資有価証券売却益	—	20
補助金収入	301	—
特別利益合計	315	53
固定資産売却損	8	4
固定資産除却損	94	69
減損損失	21	—
事業構造改善費用	541	—
特別損失合計	664	73

年度 (単位：百万円)	総 資 産	純 資 産	自己資本比率	1 株 当 たり 純 資 産
2016年度末	113,151	76,778	64.1%	2,433円10銭
2015年度末	115,136	72,497	59.0%	2,277円32銭

(参考) 自己資本 2016年度末 72,532百万円
2015年度末 67,890百万円

科目 (単位：百万円)		2015年度末	2016年度末	増減額
資産の部	流動資産	62,672	60,208	△2,463
	固定資産	52,464	52,943	478
資産合計		115,136	113,151	△1,984
負債の部	流動負債	31,894	29,667	△2,226
	固定負債	10,744	6,705	△4,039
	負債合計	42,638	36,373	△6,265
純資産の部	株主資本	67,420	73,488	6,067
	その他包括利益累計額	469	△ 955	△1,425
	非支配株主持分	4,607	4,245	△361
	純資産合計	72,497	76,778	4,280
負債純資産合計		115,136	113,151	△1,984

科目 (単位：百万円)		2015年度末	2016年度末	増減額
株主資本	資本金	10,128	10,128	—
	資本剰余金	13,405	13,405	—
	利益剰余金	45,267	51,336	6,069
	自己株式	△1,380	△1,382	△2
	合計	67,420	73,488	6,067
その他の包括 利益累計額	その他有価証券評価差額金	252	239	△13
	為替換算調整勘定	68	△1,694	△1,763
	退職給付に係る調整累計額	148	499	350
	合計	469	△955	△1,425
非支配株主持分		4,607	4,245	△361
純資産合計		72,497	76,778	4,280

キャッシュフロー 設備投資額・減価償却費・研究開発費

2016年度補足

JSP Corporation
Engineered Plastic Foams

キャッシュフロー

年度 (単位：百万円)	営業活動による キャッシュフロー	投資活動による キャッシュフロー	財務活動による キャッシュフロー	現金及び現金 同等物の残高
2016年度	10,688	△6,188	△6,497	7,965
2015年度	13,849	△6,001	△5,907	10,295

設備投資額・減価償却費・研究開発費

年度 (単位：百万円)	設備投資額	減価償却費	研究開発費
2016年度	6,236	4,952	2,178
2015年度	6,341	4,903	2,034

(注) 設備投資額はキャッシュベースであります。

1. 2017年3月期決算概要（2016年度）
2. 2018年3月期決算見通し（2017年度見通し）
3. 2017年3月期決算補足（2016年度補足）
4. 新工場・新製品の紹介

中部・西日本 発泡ポリスチレン押出ボード工場「ミラフォーム」



背景

- 2020年省エネ基準への適合義務化
- 東西供給体制の構築
- 高断熱材ミラフォームA生産体制の構築
- 製品性能の向上、効率的な生産体制を実現

新工場の概要

①所在地	兵庫県たつの市（現工場に隣接）
②事業内容	ミラフォームの生産及び二次加工
③総投資額	約40億円
④生産開始	2018年12月（予定）

中国長春 発泡ポリプロピレンビーズ工場「ピーブロック」



背景

- 中国 東北・華北エリアにおける供給体制の構築
- 需要地に密接した生販体制構築によるシェア拡大

新工場の概要

①社名	杰斯比塑料（無錫）有限公司 長春分公司
②所在地	中華人民共和国「長春経済技術開発区」
③事業内容	発泡ポリプロピレンビーズの製造及び販売



中国武漢 発泡ポリプロピレンビーズ工場「ピーブロック」



中国全体 生産能力27,000トンへ

背景

- 中国 内陸部にも富裕層が増え自動車の需要も増加
- 環境汚染の深刻化から車体の軽量化要求が高まる

新工場の概要

①社名	杰斯比塑料（武漢）有限公司
②所在地	中華人民共和国「武漢経済技術開発区」
③事業内容	発泡ポリプロピレンビーズの製造及び販売



柔軟性発泡体「ARGILIX」の上市



柔軟性

製品の特長

- 熱可塑性エラストマー発泡ビーズ成型体
- 従来のビーズ法製品では得られなかった柔軟性
- 優れた回復性、反発性
- 引張り、屈曲に対する耐久性
- 接着性

- 2017年春夏モデルのスポーツシューズのインナーソールとして販売開始
- 様々なシューズメーカーと開発進行中

耐熱性「スチレンペーパー」



耐熱性

背景

- 個食化が進み、パスタ用などの耐熱トレーの需要が増加
- PSP全体の需要は横ばいだが、耐熱トレーの業界出荷量は2012年比で3.5倍

トレー反	魚肉などのトレー向け
一般反	弁当・納豆・菓子ゲス・工業部品トレーの容器向け
丼反	カップ麺・焼きそば等の容器向け
耐熱反	電子レンジ加熱対応用に耐熱温度をあげたタイプ
ラミ反	印刷柄フィルムをラミネートしたスチレンペーパー

日系自動車でもリアシートコア材に「ピーブロック」採用拡大

日系自動車の「ピーブロック」
リアシートコア材搭載生産台数



製品の特長

- 軽量性
- 安全性（衝突事故におけるサブマリンを防止）
- リサイクル性
- 今後数年で約4倍に拡大（日系自動車メーカー）



軽量性



イメージ図

安全性

(ご注意)

本資料の予想は現時点で入手可能な情報に基づき算出したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

株式会社 J S P

お問合せ Tel 03-6212-6306 広報 IR室